

別 添

平成20年 8 月 8 日
水稻の作柄に関する委員会**水稻の作柄に関する委員会（第2回）の意見**

平成20年産水稻の8月15日現在における作柄概況調査に当たっては、以下の点に留意する必要がある。

- 1 水稻の生育は、5月から6月にかけて低温傾向に推移したことから初期生育は抑制されたものの、関東以西では7月以降、高温・多照に推移したことから、生育は回復し、平年並みに推移していると見込まれる。
一方、北日本では7月が高温傾向ではあるものの、日照不足に推移したことから、今後の穂数、もみ数、登熟等への影響について留意するほか、倒伏や病害虫に留意する必要がある。
- 2 8月以降も、関東以西を中心に高温が続き、日照時間も平年並みかやや多いと予報されており、大きな減収要因は今のところ少ないとみられるが、台風などの天候次第では、作柄に大きな影響を及ぼす可能性もあることから、今後の気象の推移を注視する必要がある。
- 3 7月以降の高温により、斑点米カメムシ類の注意報も出されており、その被害の状況に留意するほか、北日本では7月の日照不足や今後の気象状況による、いもち病の発生に留意する必要がある。
- 4 7月以降、気温が高い日が続いていることから、出穂期から登熟期にかけての高温による品質への影響について留意する必要がある。

【参考】

水稻の作柄に関する委員会委員

(座長)	畑 中 孝 晴	社団法人農林水産先端技術産業振興センター顧問
	秋 田 重 誠	公立大学法人滋賀県立大学名誉教授
	黒 田 栄 喜	国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授
	丸 山 幸 夫	国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授
	近 藤 始 彦	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所稲収量性研究チーム長
	長谷川 利 弘	独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域主任研究員
	諸 岡 浩 子	気象庁地球環境・海洋部気候情報課調査官
	米 本 博 一	全国農業協同組合連合会常務理事
	築地原 優 二	全国農業協同組合中央会農業対策部長
	安 藤 勲	全国米穀販売事業共済協同組合常務理事